

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容	
50	17.66	19.78	割れ目は少なく、30°~60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはきむものがある。	17.66	19.78	割れ目は少なく、30°~60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈を 挟むもの がある。	17.66	19.78	17.66~19.78m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30°~60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈を挟むものがある。	-
51	-	-	-	18.10	18.10	傾斜40°の割れ目に幅1~2mmのマンガンを挟む。	18.10	10.10	18.10m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mmのマンガンを挟む。	-
52	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目ぞい1~2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な雲母が晶出している。	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目ぞい幅1~2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な 白雲母 が晶出している。	18.21	18.21	18.21m: 傾斜58°の割れ目ぞいに幅1~2mmが風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出する。	-
53	-	-	-	18.41	18.41	傾斜50°、幅1mmの白色粘土を挟む。	18.41	18.41	18.41m: 傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。	-
54	18.77	18.77	55°はせん断性割れ目で、幅2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはきむ。	18.77	18.77	55°の せん断性 割れ目は、幅2mmの 連続性 に乏しい軟弱な灰黄色粘土脈を挟む。55°割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	18.77	18.77	18.77m: 傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟弱な灰黄色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
55	18.97	18.97	58°割れ目ぞいマンガン鉱染で黒褐色化する。	18.97	18.97	58°割れ目ぞいマンガン鉱染で黒褐色化する。	18.97	18.97	18.97m: 傾斜58°の割れ目ぞいがマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
56	-	-	-	19.01	19.21	風化残留部でやや硬質。	19.01	19.21	19.01~19.21m: 風化残留部でやや硬質である。	-
57	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Dランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Cランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Cランク	-
58	19.30	19.30	62°割れ目ぞい幅5~15mmは砂状化~細片状化する。若干の粘土も含む。	19.23	19.30	19.23m及び19.30mの62°割れ目ぞい幅2~15mmは砂状化~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により黒色化している。	19.23	19.30	19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目ぞいは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により黒色化している。	-
59	19.57	19.78	(コアの形状欄)IVランク	19.57	19.78	(コアの形状欄)Vランク	19.57	19.70	(コアの形状欄)Vランク	-
60	-	-	-	19.57	19.61	傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著。	19.57	19.61	19.57~19.61m: 傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著に見られる。	-
61	19.78	19.87	破砕帯Hb(主せん断面・19.87m)上端53°、下端63°で両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む礫質粘土でやや締っている。浅黄褐色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10~50mmと場所により膨縮する。	19.78	19.87	破砕帯Hj(最新活動面・19.82m)上端53°、下端63°で両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む粘土混じり礫状部でやや硬質。浅黄褐色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10~50mmと場所により膨縮する。19.82mには幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟む。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	19.78	19.87	●19.78~19.87m: 破砕部粘土混じり礫状部(Hi)上端53°、下端63°でともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟む。	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
62	19.78	19.87	(割れ目状欄)cランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)2ランク (破砕度区分欄)Hb	19.78	19.87	(割れ目状欄)dランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hj	19.78	19.87	(割れ目状欄)dランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク (破砕度区分)Hj	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
63	19.87	19.96	(コアの形状欄) IVランク	19.87	19.96	(コアの形状欄) Vランク	19.87	19.96	(コアの形状欄) Vランク	-
64	19.87	20.56	60° 割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟弱粘土脈はさむ。	19.87	20.59	60° 割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質白色粘土脈を挟む。	19.87	20.59	19.87~20.59m: 傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質白色粘土脈を挟む。	-
65	20.56	21.50	直上位と同様、60° 割れ目からなるが、直上位よりも硬質で、硬さ「C」となる。	20.59	21.50	直上位と同様、60° の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質で、硬さ「C」となる。	20.59	21.50	20.59~21.50m: 直上位と同様、傾斜60° の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
66	20.56	21.50	(岩級区分欄) CM	20.59	21.50	(岩級区分欄) CL	20.59	21.50	(岩級区分欄) CLに含める	-
67	20.56	20.56	(コアの硬さ欄) D/Cランク境界 (コアの形状欄) IV/Ⅲランク境界 (風化欄) δ/γランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄) D/Cランク境界 (コアの形状欄) IV/Ⅲランク境界 (風化欄) δ/γランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄) D/Cランク境界 (コアの形状欄) IV/Ⅲランク境界 (風化欄) δ/γランク境界	-
68	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布、上下端はよく密着している。このすぐ上端側にはφ10mmの大型の長石斑晶が分布する。	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布、上下端はよく密着している。このすぐ上端側にはφ10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。	20.74	20.77	20.74~20.77m: 傾斜30° で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し、上下端は密着する。上端側には径10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。	-
69	20.90	20.90	65° 割れ目ぞいに微細な雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。	20.90	20.90	65° 割れ目沿いに微細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化している。	20.90	20.90	20.90m: 傾斜65° の割れ目沿いに微細な白雲母が晶出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。	-
70	21.01	21.36	(コアの形状欄) Ⅲランク	21.01	21.36	(コアの形状欄) IVランク	21.01	21.36	(コアの形状欄) IVランク	-
71	21.05	21.30	80~90° の低密着割れ目2~3本が分布し、割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	21.05	21.30	80~90° の低密着割れ目2~3本が分布し、割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。	21.05	21.30	21.05~21.30m: 傾斜80~90° のマンガン鉱染を伴う低密着割れ目が2~3本分布する。	-
72	-	-	-	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアプライト様を呈する。	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアプライト様を呈する。	-
73	21.50	23.18	上記よりもやや割れ目多くなるが(コア形状IV)、硬さ「C」と硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目ぞいに軟化するものもある。	21.50	23.18	上位よりもやや割れ目多くなるが(コア形状IV)、硬さ「C」とやや硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目沿いに軟化するものもある。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	21.50	23.18	21.50~23.18m: 上位より割れ目がやや多くなるが、やや硬質である。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部は割れ目沿いに軟化する。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
74	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2~3mm軟弱粘土脈はさむ。	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2~3mm軟質黄褐色粘土脈を挟む。	21.50	21.55	21.50~21.55m: 局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。上端の傾斜50° の割れ目には幅2~3mmの軟質黄褐色粘土脈を挟む。	下記にある同じ深度の記載をまとめて書きた
75	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
90	24.04	25.22	24.04	25.22	24.04	25.22	24.04	25.22	24.04~25.22m: 上位よりやや軟質化し、割れ目の一部は細片化する。傾斜20~60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガンを挟むことが多い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
91	24.04	24.30	24.04	24.30	24.04	24.30	24.04	24.30	(コアの形状欄) Vランク	-	
92	-	-	24.04	24.04	24.04	24.04	24.04	24.04	傾斜35°の割れ目に沿って幅5~10mmが緑色化している。	24.04m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化する。	
93	-	-	24.57	24.60	24.57	24.60	24.57	24.60	傾斜60°の割れ目に沿ってマンガンプラントが顕著に見られる。	24.57~24.60m: 傾斜60°の割れ目沿いにマンガンプラントが顕著に見られる。	
94	24.80	24.82	24.80	24.82	24.80	24.82	24.80	24.82	60°、幅15mmは白色粘土化でやや軟質化。下端側は緑色化が見られる。	24.80~24.82m: 傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し、やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。	
95	24.80	25.22	24.80	25.22	24.80	25.22	24.80	25.22	(コアの形状欄) Vランク	-	
96	25.22	26.84	25.22	26.84	25.22	26.84	25.22	26.84	一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5~1mmの白色・軟弱粘土脈をはさまるが粘土脈の分布は少ない。	25.22~26.84m: 一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	
97	26.67	26.67	26.67	26.67	26.67	26.67	26.67	26.67	55°のせん断性割れ目。交差する割れ目を切っている(変位量12mm左ズレ)。幅1mmの白色・軟弱粘土脈をはさまる。	55°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っている(変位量12mm左ズレ)。幅1mmの連続性に乏しい白色・軟弱粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	26.67m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性に乏しい軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
98	26.84	26.94	26.84	26.94	26.84	26.94	26.84	26.94	(岩級区分欄) CM	(岩級区分欄) CL	
99	26.84	27.38	26.84	27.38	26.84	27.38	26.84	27.38	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Cランク	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	
100	26.84	28.73	26.84	28.73	26.84	28.73	26.84	28.73	互いに交差する40~60°割れ目が主体。上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化するが、硬質(硬さ「C」)。	26.84~28.73m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質~やや軟質である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
101	27.30	27.32	27.30	27.32	27.30	27.32	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な淡黄色粘土を伴ない、全体が粘土化進む。	27.30~27.32m: 上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な淡黄色粘土を挟み、全体に粘土化が進む。	
102	27.38	27.80	27.38	27.80	27.38	27.80	27.38	27.80	(割れ目状態欄) cランク	(割れ目状態欄) bランク	
103	27.85	28.00	27.85	28.00	27.85	28.00	27.85	28.00	(コアの形状欄) IVランク	(コアの形状欄) Vランク	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
104	28.42	28.46	上端65°、下端55° 割れ目に囲まれてφ5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟弱な粘土脈を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し微細な雲母片が晶出する。	28.42	28.46	上端65°、下端55° 割れ目に囲まれてφ5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟弱な粘土脈を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し微細な白雲母片が晶出する。	28.42	28.46	28.42~28.46m:上端65°、下端55°の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟弱な粘土脈を伴い、幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目沿いに白雲母が晶出する。	-
105	28.50	28.73	(コアの形状欄)IVランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Vランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Vランク	-
106	28.73	30.20	割れ目が少なく硬質。40~60° 割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m・60° 割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。粘土脈や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	割れ目が少なくやや硬質。40~60° 割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m・60° 割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	28.73~30.20m:やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	-
107	28.98	29.21	(コアの形状欄)IIIランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)IVランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)IVランク	-
108	29.21	30.20	(割れ目状態欄)cランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)bランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)bランク	-
109	-	-	-	29.32	29.33	径2~5mmのかり長石、石英が脈状に分布する。傾斜30°、幅10~12mm。	29.32	29.33	29.32~29.33m:傾斜30°、幅10~12mmで径2~5mmのかり長石、石英が脈状に分布する。	-
110	29.50	29.50	付近の55°と60° 割れ目ぞいはマンガン鉱染でφ2mm~3mm程度の斑点状に黒色化する。	29.45	29.45	付近の55°と60° 割れ目沿いはマンガン鉱染でφ2mm~3mm程度の斑点状に黒色化する。	29.45	29.45	29.45m:傾斜55°と60°の割れ目沿いはマンガン鉱染で径2~3mm程度の斑点状に黒色化する。	-
111	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(IV)、互いに交差する30~60° 割れ目からなる。粘土化部は分布せず、粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(IV)、互いに交差する30~60° 割れ目が分布する。粘土化部は分布せず、粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	30.20~31.44m:上位と同じ硬さで、割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30~60°の割れ目が分布する。粘土化部は分布せず、粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
112	30.20	33.00	(風化欄)δランク	30.20	33.00	(風化欄)γランク	30.20	33.00	(風化欄)γランク	-
113	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟弱なにぶい黄橙色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土をはさんでいる。	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟弱なにぶい黄橙色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土を挟んでいる。30.68mの割れ目沿いに緑色化している。	30.68	30.75	30.68~30.75m:上端60°で幅2mmの軟弱なにぶい黄橙色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間は、割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。	-
114	30.76	31.00	(コアの形状欄)IVランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)IIIランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)IIIランク	-
115	31.22	31.40	(コアの形状欄)IVランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)IIIランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)IIIランク	-
116	30.76	31.40	(岩級区分欄)CL	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM	-
117	31.40	31.44	(コアの形状欄)IVランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Vランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Vランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
118	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	31.41	31.44	軟質化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	31.41	31.44	31.41～31.44m: 軟質化し、マンガン鉱染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	-
119	31.44	31.46	破砕帯Hc-1(主せん断面・31.46m) 上端・下端35°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟弱な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。	31.44	31.46	破砕部 Hc-1 (最新活動面・31.46m) 上端・下端35°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	31.44	31.46	●31.44～31.46m: 破砕部 粘土状部(Hc-1) 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒を含む。軟質。灰白～にぶい黄橙～灰赤色を呈する。幅10～12mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
120	31.46	33.00	割れ目は少ないが、低密着割れ目が概ね10～30mm程度で分布するため、コア形状をVと評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、割れ目や低密着割れ目には幅0.5～2mmの軟弱な白色～灰赤(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。	31.46	33.00	割れ目が多くなり、低密着割れ目が概ね10～30mm程度で分布するため コア形状をVと評価した 。低密着割れ目は30～60°が主体で、 割れ目や低密着割れ目には幅0.5～2mmの軟質な白色～灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。	31.46	33.00	31.46～33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30～60°の低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5～2mmの軟質な白～灰赤色粘土脈を伴う。	-
121	31.70	31.80	幅10mm程度・30°のマンガン鉱染による黒褐色縞状部が分布する。	-	-	-	31.70	31.80	31.70～31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン鉱染による黒褐色縞状部が分布する。	-
122	-	-	-	32.05	32.11	32.05～32.11m間はマンガン汚染が顕著に見られる。	32.05	32.11	32.05～32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	-

余白

H24-D1-4

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)											
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事										
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>											
1	0	2.94	埋戻し土		0.00	7.62	盛土	0.00	7.62	0.00	7.62	0.00~7.62m: 盛土						
2	0	0.32	礫 φ5~30mmの黒色砕石からなる。		0.00	0.32	礫 φ5~30mmの黒色砂岩からなる。	0.00	0.32	0.00~0.32m: 礫 径5~30mmの黒色砂岩からなる。								
3	0.00	0.32	(地質名欄) 礫(埋戻し土)		0.00	0.32	(地質名欄) 礫(盛土)	0.00	0.32	(地質名欄) 盛土			・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した					
4	0.32	2.94	礫混り粗砂 φ3~40mmのGp, Ap 亜角~亜円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3~10mmの砕石片を多く含む。		0.32	2.94	礫混り粗砂 φ3~40mmのGp, Ap 亜角~亜円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3~10mmの砂岩を多く含む。	0.32	2.94	0.32~2.94m: 礫混り粗砂 径3~40mmの花崗斑岩、アブライトの亜角~亜円礫を含むルーズな粗砂 からなり、径3~10mmの砂岩を多く含む。								
5	0.32	2.94	(地質名欄) 礫混り粗砂(埋戻し土)		0.32	2.94	(地質名欄) 礫混り粗砂(盛土)	0.32	2.94	(地質名欄) 盛土			・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した					
6	2.94	5.60	(地質名欄) 砂礫(改良土)		2.94	5.60	(地質名欄) 砂礫(盛土)	2.94	5.60	(地質名欄) 盛土			・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した					
7	2.94	5.60	砂礫 φ5~130mmのGp, Apの亜角~亜円礫で硬質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ~粗砂でやや締っている。礫含有率は40~50%で あるが、5.15m以深ではφ10mm前後の小型の礫が 主体。		2.94	5.60	砂礫 φ5~130mmのGp, Apの亜角~亜円礫で硬質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ~粗砂でやや締っている。礫含有率は40~50%で あるが、5.15m以深ではφ10mm前後の小型の礫が 主体。	2.94	5.60	2.94~5.60m: 砂礫 径5~130mmの花崗斑岩、アブライトの亜角~亜円礫で、硬質なもの が主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中~粗砂でやや締まる。礫率は40 ~50%であるが、5.15m以深では径10mm前後の礫が主体である。								
8	4.96	5.12	φ10~60mmのコンクリート片を含む。		-	-	-	4.96	5.12	4.96~5.12m: 径10~60mmのコンクリート片を含む。								
9	5.60	7.40	礫混り粗砂 上位深度よりも礫量が減少したもの。上位よりルーズ となる。礫はφ5~10mmと小型で半クサリ礫のGp 主体で、一部クサリ化する。		5.60	7.62	礫混り粗砂 上位深度よりも礫量が減少する。上位よりルーズと なる。礫はφ5~10mmのと小型で半クサリ礫のGp主 体で、一部クサリ礫となる。	5.60	7.62	5.60~7.62m: 礫混り粗砂 上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5~10mmの 花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。								
10	5.60	7.62	(地質名欄) 礫混り粗砂(改良土)		5.60	7.62	(地質名欄) 礫混り粗砂(盛土)	5.60	7.62	(地質名欄) 盛土			・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した					
11	6.00	6.45	φ10mm前後主体に礫量が多い。礫含有率は50% 程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm以下 の小型でも硬いものが多い。		6.00	6.45	φ10mm前後主体になり、礫量が多い。礫含有率は 50%程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm 以下の小型でも硬いものが多い。	6.00	6.45	6.00~6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、礫量が多い。礫率 は50%程度で上下に比べて締っている。								
12	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟弱な粘土が不規則なア メーバ状に分布する。浅部ないし深部側への連続 性はない。		6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟弱な粘土が不規則な形 でアメーバ状に分布する。浅部ないし深部側への 連続性はない。	6.36	6.42	6.36~6.42m: 明赤灰色の軟弱な粘土が不規則な形で分布する。浅部な いし深部側への連続性はない。								
13	7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。		-	-	-	7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。								
14	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂 の基盤岩		7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂 の基盤岩	7.40	-	7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗岩質の粗砂からなる。								
15	7.62	7.62	7.62mで着岩		-	-	-	-	-	-			・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない					
16	-	-	φ2~8mm石英と長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)		7.62	17.89	花崗斑岩 φ2~10mm石英と長石の斑晶を5~15%程度含 む。	7.62	17.89	7.62~17.89m: 花崗斑岩 径2~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。								

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事 (要史箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
		記事			記事			記事	記事	
		記事			記事			記事	記事	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容		
29	10.76	11.22	(岩級区分欄)D	10.76	11.22	(岩級区分欄)CL	10.76	11.22	(岩級区分欄)CLに含める	-
30	10.88	10.91	上端30°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟化~粘土化岩片を含む硬質粘土であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部の幅5mmは珪化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、にぶい橙(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	10.88	10.91	上端30°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟化~粘土化岩片を含む粘土質礫状部である。礫質粘土であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部下端側の幅5mmは珪化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、にぶい橙(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	10.88	10.91	10.88~10.91m: 上端30°、下端35°でともに連続的でシャープに連続する。径5~10mmの風化して軟質化~粘土化した岩片を含む粘土質礫状部である。下端側の幅5mmは珪化で硬質化し、マンガン鉱染により一部は黒褐色化する。全体ではにぶい橙~黒褐色を呈する。幅20~30mm。	-
31	10.91	10.93	破砕帯 Hc-2(D-1破砕帯)(主せん断面・10.93m) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟弱な浅黄褐色(10YR 8/4)の粘土で、最下位には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmのやわらかい灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、浅黄褐色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm	10.91	10.93	破砕部 Hc-2(D-1破砕帯)(最新活動面・10.93m) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟弱な浅黄褐色(10YR 8/4)の珪質粘土で、最下位には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、浅黄褐色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	10.91	10.93	●10.91~10.93m: 破砕部 珪質粘土状部(Hc-2) 上端35°、下端38°でともに直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を若干含む、軟質。下端には石英粒、岩片を含まない幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が連続する。全体は浅黄褐色を呈する。幅15~18mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
32	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟化している。	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟質化している。	10.93	11.22	10.93~11.22m: 粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体に軟質化	-
33	11.22	11.65	50~70° 割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50° 割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んどはさまないが、割れ目ぞいに砂状化する。	11.22	11.65	50~70° 割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50° 割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んどはさまないが、割れ目ぞいに砂状化する。	11.22	11.65	11.22~11.65m: 傾斜50~70°の割れ目が主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んどはさまないが、割れ目ぞいに砂状化する。	-
34	11.65	17.89	上位より割れ目が少なくなる。コア形状IVである。硬さDの岩片が主体であるが、割れ目ぞいの一部に風化で軟化した硬さEが分布している。	11.65	17.89	上位より割れ目が少なくなる。コア形状IV主体である。硬さDの岩片が主体であるが、割れ目ぞいの一部に風化で軟化した硬さEが分布している。	11.65	17.89	11.65~17.89m: 上位より割れ目が少なくなる。全体にやや軟質であるが、割れ目ぞいの一部は風化でより軟質化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
35	11.90	12.16	(コアの形状欄)IVランク	11.90	12.16	(コアの形状欄)Vランク	11.90	12.16	(コアの形状欄)Vランク	-
36	12.00	13.00	(最大コア長欄)9	12.00	13.00	(最大コア長欄)7	12.00	13.00	(最大コア長欄)7	-
37	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目にはさまれる粘土脈の分布も少ない。割れ目ぞいの一部は薄くマンガン鉱染をうける。	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目にはさまれる粘土脈の分布も少ない。割れ目ぞいの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	15.27	-	15.27m以深は、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目にはさまれる粘土脈の分布も少ない。割れ目ぞいの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	-
38	12.60	12.60	45° 幅1~2mmの石英脈。境界ぞいに割れ目化し、割れ目も含む周辺10~20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	12.60	12.60	45° 幅1~2mmの石英脈。境界ぞいに割れ目化し、割れ目とその周辺幅10~20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	12.60	12.60	12.60m: 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈を挟み、境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10~20mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。	-
39	13.00	13.38	風化で砂状化が進む部分が多い。	-	-	-	13.00	13.38	13.00~13.38m: 風化で砂状化が進む部分が多い。	-
40	13.00	14.00	(最大コア長欄)4	13.00	14.00	(最大コア長欄)6	13.00	14.00	(最大コア長欄)6	-
41	13.45	16.80	φ5~10mmの粘土化し白濁化した長石斑晶を多く含む。	-	-	-	13.45	16.80	13.45~16.80m: 径5~10mmの粘土化し白濁化した長石斑晶を多く含む。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
42	14.00	15.00	(最大コア長欄)9	14.00	15.00	(最大コア長欄)7	14.00	15.00	(最大コア長欄)7	-
43	15.00	15.21	(コアの形状欄)IVランク	15.00	15.21	(コアの形状欄)Vランク	15.00	15.21	(コアの形状欄)Vランク	-
44	15.27	17.89	(風化欄)γランク	15.27	17.89	(風化欄)δランク	15.27	17.89	(風化欄)δランク	-
45	15.50	15.50	55° 割れ目に幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈がはさまれる。	15.50	15.50	55° 割れ目に幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈が 挟まれる。	15.50	15.50	15.50m: 傾斜55° で幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色粘土脈を挟む。	-
46	16.00	17.10	複数の75~85° で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土をはさむ。	16.00	17.10	複数の75~85° で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土を 挟む。	16.00	17.10	16.00~17.10m: 複数の傾斜75~85° で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土を挟む。	-
47	16.84	17.10	(コアの形状欄)IVランク	16.84	17.10	(コアの形状欄)Vランク	16.84	17.10	(コアの形状欄)Vランク	-
48	17.03	17.03	45° 幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	17.03	17.82	17.03m・45°、17.82m・40° で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	・記事内容が同じであるため、17.82mの記事を含めて記載した
49	17.32	17.32	60° 幅2mm軟弱~半固結状の明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土脈が分布。微細な雲母を伴う。	17.32	17.32	60° 幅2mm軟弱~ やや硬質 な明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土脈が分布。微細な 白雲母 を伴う。 割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	17.32	17.32	17.32m: 傾斜60° で幅2mmの軟弱~やや硬質な明灰オリーブ色の粘土脈を挟む。微細な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	-
50	17.82	17.82	40° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
51	17.80	18.44	花崗岩(Gr) 上端50° で幅3~4mm石英脈とφ2~5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3~5mmの石英、長石、φ1~3mmの黒雲母の各斑晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石斑晶はφ10mm程度と大型化するものも含み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はOp1に遷移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や岩組織は残留するが、風化で著しく軟化している。	17.89	18.44	黒雲母花崗岩(Gr) 上端50° で幅3~4mm石英脈とφ2~5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3~5mmの石英、長石、φ1~3mmの黒雲母の各斑晶をもつ 黒雲母花崗岩 が分布する。長石斑晶はφ10mm程度と大型化するものも含み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はOp1に 漸移 している。上端境界付近でわずかに 変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や原岩組織は残留するが、風化で著しく軟化している。	17.89	18.44	17.89~18.44m: 黒雲母花崗岩 上端50° で幅3~4mmの石英脈と径2~5mmの緑泥石を伴って、平均径3~10mmの石英、長石、径1~3mmの黒雲母の斑晶からなり、等粒状組織をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗斑岩に漸移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。割れ目や原岩組織は残留するが、風化で著しく軟化する。	-
52	17.89	18.44	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	17.89	18.44	(割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)DL	17.89	18.44	(割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)DL	-
53	-	-	-	18.44	70.00	花崗斑岩 19.11~19.33m, 28.43~30.40m付近, 55.84~57.00m付近など 斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	18.44	70.00	18.44~70.00m: 花崗斑岩 19.11~19.33m, 28.43~30.40m付近, 55.84~57.00m付近など斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	-
54	18.44	21.00	30~50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60~70° 割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱な粘土脈をはさむが、頻度は低い。	18.44	21.00	30~50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60~70° 割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱な 白色 粘土脈を 挟むが、頻度は低い。	18.44	21.00	18.44~21.00m: 傾斜30~50° の割れ目が主体で、一部で60~70° の割れ目が交差する。一部に幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	-
55	18.90	19.10	(コアの形状欄)Vランク	18.90	19.10	(コアの形状欄)Vランク	18.90	19.10	(コアの形状欄)Vランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
56	19.08	19.08	50° 割れ目は幅2~3mmの固結粘土脈をはさみ、上盤側約50mmがマンガン鉱染つける。	19.08	19.08	50° 割れ目は幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmがマンガン鉱染を受ける。	19.00	19.00	19.08m: 傾斜50° で幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmはマンガン鉱染を受ける。
57	18.90	19.75	幅1~5mm、30~50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	18.90	19.75	幅1~5mm、30~50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	18.90	19.75	18.90~19.75m: 傾斜30~50° で幅1~5mmの石英脈が母岩に密着して複数分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。
58	20.60	20.60	70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60	20.60	70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60	20.60	20.60m: 傾斜70° の割れ目ぞいに風化して褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。
59	20.90	21.66	(風化欄) Aランク	20.90	21.66	(風化欄) δランク	20.90	21.66	(風化欄) δランク
60	21.00	21.66	割れ目は少ないが、一部で60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	-	-	-	21.00	21.66	21.00~21.66m: 割れ目は少ないが、一部で傾斜60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。
61	21.19	21.44	21.19m・35°、21.44m・50° のいずれも幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-	-	-	21.19	21.44	21.19m・35°、21.44m・50° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。
62	21.44	21.66	(コアの形状欄) IIIランク	21.44	21.66	(コアの形状欄) IVランク	21.44	21.66	(コアの形状欄) IVランク
63	21.50	21.50	60° はせん断性割れ目で、上記の21.44m・50° 石英脈を切っている(変位量不明)	21.50	21.50	60° のせん断性割れ目は、上記の21.44m・50° 石英脈で横断される。を切っている(変位量不明)割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	21.50	21.50	21.50m: 傾斜60° の割れ目は、21.44m・50° の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
64	21.66	26.78	30~50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈をはさむことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66	26.78	30~50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66	26.78	21.66~26.78m: 傾斜30~50° の割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈をはさむことがある。粘土脈の分布は少ない。
65	22.36	22.40	φ15mmと大型の長石斑晶2ヶが晶出。	22.36	22.40	φ15mmの大型の長石斑晶が2個見られる晶出。	22.36	22.40	22.36~22.40m: 径15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。
66	22.72	22.78	22.72m・45° ~22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。	22.72	22.78	22.72m・45° ~22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。	22.72	22.78	22.72m・45° ~22.78m・50° の間は、風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。
67	23.27	23.27	50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土脈はさむ。	23.27	23.27	50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土脈挟む。	23.27	23.27	23.27m: 傾斜50° で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。
68	23.40	23.77	60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。	23.40	23.77	60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断し切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。	23.40	23.77	23.40~23.77m: 傾斜60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。
69	-	-	-	23.76	24.00	傾斜70~90° 湾曲した高角度割れ目が分布する。幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	23.76	24.00	23.76~24.00m: 傾斜70~90° の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。